



# [財]日本太鼓連盟

## NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2004年 7月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

### 会報

## 就任のごあいさつ



財団法人 日本太鼓連盟  
会長 紀内 隆宏

太鼓関係者の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

去る6月23日に開催されました第14回理事会において、津田正会長の後を受け、会長に選任されました。

財団法人日本太鼓連盟は、1997年の設立以来、今年で7年目を迎えました。今日では36都道府県に40支部が設置され、加盟820団体、会員総数2万3千人を超える組織となりました。公認指導員、技術認定員の数も毎年着実に増えてきており、さらに今年1月にアメリカ太鼓連盟、2月にブラジル太鼓協会が相次いで発足し、国内のみならず海外においても日本太鼓の普及、振興が図られてきていますと伺っております。

これもひとえに会員の皆様の常日頃からのご協力と日本財団をはじめとする関係団体のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

以前から、日本太鼓は日本の伝統音楽として、また郷土を代表する芸能として、地域社会に親しまれ、受け継がれてきております。加えて近年は老若男女を問わず広く受け入れられ、健常者のみならず障害者グループも数多く誕生してきております。

さらに、日本の伝統文化の海外における紹介のうち、特に太鼓の海外演奏は「日本の心」を伝えるものとして高い人気を博しております。

日本太鼓が脚光を浴びる中、これからは、当財団の運営についても国内のみならず、海外の太鼓愛好者も視野に入れ、支部、加盟団体、会員とさらに緊密な連携を図りながら、次のことを主眼として、さらなる日本太鼓の普及、発展を図っていきたく存じます。みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

1. 全国47都道府県の支部開設を目指し、未開設の11府県の支部設立化に務める。
2. 「新学習指導要領」により2002年から中学校、2003年から高等学校で、音楽教育に日本太鼓等の和楽器教育が取り入れられている。このため、教育委員会や支部の協力のもと、さらに全国的に教職員太鼓研修会の実施に務める。
3. 「太鼓ファン」の設置趣旨に則り、海外公演や海外講習会の実施により、海外との交流を深め、当財団の拠点づくりに務める。
4. 日本太鼓全国フェスティバル、日本太鼓全国障害者大会、日本太鼓ジュニアコンクールについては、多くの人達の意見を聴取、反映し愛好者の要請に応える内容の開催に務める。

#### 【略歴】

1961年 東京大学法学部卒業・自治省に入省

1988年 同 大臣官房審議官

1991年 同 行政局長

1993年 消防庁長官

1996年 全国知事会事務総長

2002年 (財)全国市町村振興協会理事長

# ブラジル日本太鼓公演

## ～ブラジル太鼓協会発足を記念して～

当財団では、5月31日から6月14日までの2週間、太鼓集団天邪鬼(東京都)をブラジルへ派遣いたしました。この公演は、今年2月に発足したブラジル太鼓協会より、発足記念として当財団への協力要請を受け実施したものです。なお、今後の協調連携を図るため、同時期に発足したアメリカ太鼓連盟会長・田中誠一氏並びに当財団運営委員である今泉豊氏にも同行していただきました。

リオデジャネイロ、マリンガ、サンパウロの3都市で4公演を実施しましたが、いずれの会場においてもスタンディングオベーションという高い評価を受け、演奏終了まで誰ひとり席を立たないほどの盛況ぶりでした。また、天邪鬼の演奏前には、国際協力機構(JICA)のシニアボランティアとして派遣されていた小田幸久氏(当財団福岡県前支部長)が指導されたチームが演奏を行いました。5月23日に開催された『第1回全ブラジル太鼓選手権大会』(ブラジル太鼓協会主催)の入賞チームというだけあり、8ヶ月から2年弱という短い指導期間ながらも、気迫に満ちた演奏を披露、大きな歓声を浴びていました。ブラジル太鼓協会会長・渡部一誠氏は「この公演を契機に、ブラジルにおいて日本太鼓が益々普及するのは間違いない。さらには、一流の太鼓チームによる演奏を経験したことにより、技術レベルの底上げにも繋がるだろう」と感想を述べられていました。

### ブラジル公演を終え

太鼓集団天邪鬼 代表 渡辺 洋一

このブラジル公演は、我々にとって非常に有意義な公演となりました。そしてこの公演を通じ痛感した点は、ブラジルの国内において、風土、考え方、また人との接し方などがそれぞれ異なっており、今後それらを踏まえての協力や支援を行うことが肝要ではないかということです。

国際協力機構のシニアボランティアで既に2年間派遣されている小田氏の並々ならぬご努力の賜物とご苦労も容易に推測が出来ました。ブラジルは広大で、それらを一つにまとめて事業や行事を行うには、まだかなりの時間を要するよう感じられました。しかし良い点も沢山あり、その一つはやはり子供達の純粋性で、その目の輝きは日本ではなかなか見られなくなった子供らしさの表れであり、それが随所に見られ、大変気持ちの良いものでした。

ただし、使用している太鼓がとても演奏用といえるものではなく、楽器に関してのみならず、各団体の父兄や、またそれに賛同している企業なりに、提案しなければならぬ問題が山積みされていると感じました。

ブラジル太鼓協会ができて、まず自分たちが深く考え、その主旨をよく理解し、自分達で一つ一つ難題をクリアすることが大事であり、加えて財団の支援により、一層充実したブラジル太鼓協会が出来上がっていくのではと、そう思わずにはいられ

ませんでした。

今回の全ての公演は大成功だったと思いますが、しかしその半分は初めて日本の太鼓を見た驚きの反響であり、他のチームが行き、演奏してもさして変わりはないかとも思います。ただし、継続して良い演奏家を派遣して行かなければ、子供達の技術向上の道は閉ざされると言っても過言ではないと思います。

是非ブラジルに新しい風を巻き起こし、日本太鼓の中にある大和魂(アイデンティティー)日本人の心を受け継いでいって欲しいと心より願っております。

今回の公演を実現させていただいた、(財)日本太鼓連盟の塩見理事長をはじめ、現地で2年に渡り実りある指導をされた小田氏、そしてこれらの事業に関わった全ての人に感謝します。本当にありがとうございました。



(マリンガでの公演風景)

### 太鼓という絆

太鼓集団天邪鬼 小川 ひろみ

私達、太鼓集団天邪鬼はブラジル太鼓協会発足記念コンサートのため御地に赴きました。(財)日本太鼓連盟のブラジル拠点が出来たということは、なんと素晴らしいことでしょう。日本太鼓が世界へと発信され、今まさに多くの絆が結ばれようとしています。

ブラジルには古くから日系の方々が多く住んでおられ、日本の文化が独特の形で受け継がれていると聞いてはおりましたが、私自身が生涯の道として選んだ“太鼓”という楽器が、日本とブラジルの人々を繋ぐ新しく太い絆となることに、深い感動を覚えた旅となりました。この数年、日本でも和楽器が学校教育の中で見直され、日本太鼓が授業に取り入れられるようになり、今まで楽器としての地位の低かった、日本太鼓の真の可能性や音楽性が広く知られるようになったと思います。それが日本のみならず、こうして世界へと発信されることに、新しい可能性が大きく広がってゆくのではないかと思います。

今回ブラジルでは、私達天邪鬼コンサートの前に、現地で活動する太鼓チームの演奏が披露されました。各地ともジュニアチームでありましたが、太鼓に対する情熱、意気込み、そして何よりも太鼓が“好き”であることは日本の太鼓打ちと全く変わりのないものでした。日本の曲をアレンジした楽曲を組み入れたり、またブラジルならではのサンバの踊りを加えたりと、新しい太鼓の形を見せていただきました。



(ブラジル全土のテレビで生放送された公演・マリंगा)

太鼓がその土地、土地で風土や環境によって進化してゆく。これは日本でも同じことであり、これから先、ここブラジルでも同様に独自の形を作り上げてゆくのだと彼らの演奏を聴き、痛感いたしました。ただ問題は、日本の太鼓の本質をどこまで理解し、習得させ、どのように進化させるのかという点であります。日本太鼓の本質を確かに継承させつつ、独自に進化させることが、遠く離れた地でも末永く人々に愛される太鼓音楽になるのではと思います。

私たち天邪鬼のコンサートには多くの観客の方々に来場いただき、拍手喝采を受けました。コンサート後には現地の方々に“本当の太鼓の音を聞かせていただきました！”と声をかけていただき、太鼓を演奏していた子供たちから目をキラキラと輝かせた様子で“私も天邪鬼さんのような太鼓打ちになるように頑張ります！”と伝えられ、“感動しました！この感動をブラジルの他の人達にも与えてください！”とのメールも各地で受け取りました。

日本太鼓は鼓動の音楽です。言葉を越え、人種を越え、国を越え、人の身体に直接訴えることのできる楽器です。各地での大成功を収めた演奏は、自分達が日本とブラジルを結ぶ一端を担うことができたという確信に繋がりました。私にとっても、天邪鬼にとっても、そして日本の太鼓界にとっても、大きな意義のあるコンサートだったと確信しております。

今回ブラジル太鼓協会に加盟したのは50数団体だったと聞いております。この多くの団体を結成、指導をされた小田幸久氏と同行し、この2年の間のご苦労、指導方針、国による考え方の違い等々、多くのことを聞かせていただきました。

まず太鼓という楽器の製作から試行錯誤を繰り返し、楽器の大切さ、先生と生徒の関係、仲間との連帯感を教え…と日本では当たり前にあるものを一から理解させ、納得させ、習得させていかれたそうです。お話を聞いただけで気の遠くなるようなご苦労があったと推察されます。小田氏の太鼓を想う気持ち、ご苦労ご努力に改めて感服しています。

旅の最後の地、サンパウロで行なわれた、ブラジル太鼓協会主催のレセプションにおいてメンバーそれぞれに“絆”というTシャツをいただきました。この“絆”という言葉こそが今回の公演の目的であり、今後の日本とブラジルを結ぶ太鼓音楽の目的であります。その“絆”の一端を担えたこと、そして日本より遠く離れた地球の反対の地、ブラジルにおいて私達の愛してやまぬ太鼓という楽器によって新しい“絆”が結ばれたことに深く感動を覚えました。

## 世界を視野に入れる日本太鼓

津軽三味線 澤田成右衛門 (坂井 尚)

今回のブラジル公演に参加させていただいて実感し、驚いたのは、日本太鼓が既に世界を視野に入れた活動に入っているという事実でした。日本太鼓という芸能が、世界中どこへ行っても高い評価を受けるという事実は、既によく知ってはいましたが、演奏者の派遣は言うまでもなく、指導者の派遣・海外での組織作りなど、ワールドワイドな活動を展開していることに、とても感動いたしました。このような高度な活動を展開している日本の音楽芸能は他には見当たらないのではないかと思います。

例えば民謡・三味線に関して言えば、ひたすら国内の演奏者・後継者の減少を食い止めることに力を注がなくてはならない状況にあり、個人の演奏者の活動以外に「海外」という視野はほとんどあり得ないのが現状です。日本太鼓と共に比較的若い演奏者が多いと言われている津軽三味線でも、個人の演奏者の活動以外、このような高度な海外展開という視野は持ちえていません。こうした伝統邦楽のみならず、そもそも日本の音楽文化自体が(個人の演奏者の活動以外)、積極的に海外に発信し展開するという力と意識を、あまり持っていなかったように思います。

伝統音楽が積極的に海外に展開するということは、日本人が自分達の伝統の力に自ら気付く大いなるチャンスでもあります。外に向けて発信し展開することは、海外の人々のみならず、日本国内の人々に向けて発信することでもあります。

ブラジルで見たあの子供たちの中から次の指導者が現われるでしょう。日本を凌ぐ演奏者すら現われるかもしれません。日本の若者達ものんびりしてはいられません。まだまだ修行中で経験の浅い自分が、今回こうした日本太鼓の高度な活動に同行させていただいたということは、大いなる喜びです。自分の演奏や力の至らぬ部分、勉強しなければならない部分を実感すると共に、三味線をはじめ他の音楽芸能も、ぜひ日本太鼓に続かなくてはならないと強く感じました。



(アルモニア学園での公演・サンパウロ近郊)

### 【派遣メンバー】

#### <太鼓集団 天邪鬼>

渡辺洋一(代表)、小川ひろみ、川名真由美、  
涌井晴美、影山伊作、渡辺大介、澤田成右衛門

#### <助六太鼓保存会> 今泉 豊(代表)

<アメリカ太鼓連盟> 田中誠一(会長)

#### <財団法人日本太鼓連盟>

塩見和子(理事長)、大澤和彦(総務部長)、  
印出公平(職員)

# 秋篠宮妃殿下のご臨席を賜り 第8回日本太鼓チャリティコンサートを開催



(フィナーレ)

5月21日第8回日本太鼓チャリティコンサートが東京都港区草月ホールで開催されました。

このコンサートは、日本財団の助成事業として、(財)日本太鼓連盟が、アジア婦人友好会(会長三木睦子氏・国連婦人会会長)の共催を得て開催したものです。アジア婦人友好会は、1968年の設立以来、アジア太平洋諸国の多くの方たちへの支援、国際理解の促進に努めておられ、今回この活動を支援するためチャリティコンサートを実施しました。

開催前日の予報では、台風が近づき大雨も心配されておりましたが、当日は初夏の爽やかな風が吹き、ホール前の新緑が光る素晴らしい天気となりました。

秋篠宮妃殿下のお成りをいただき、各国の大使、政財界ほか各分野で活躍しておられるオピニオンリーダー300名以上の方々にご出席をいただきました。

開演に先立ち主催者を代表して塩見理事長、共催者を代表して三木睦子アジア婦人友好会会長、バングラディッシュ大使夫人ナスリン・フォウジア副会長よりご挨拶をいただき、当財団加盟の全国各地の太鼓チーム820団体から選ばれた5チームに、第6回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チームを加えた6チームによる以下の演奏が行われました。

新潟県「新崎樽ばやし連」。200年にわたり新潟盆踊りの拍子方として親しまれてきた切れの良いリズムとその撥さばき、そして樽を撥(木槌)で叩くことで生まれる澄んだ音色が会場に響きわたりました。

秋田県「大館曲げわっぱ太鼓『忍』組」。リーダー大沢しのぶ氏による大太鼓一人打ち。男性顔負けの力強い撥さばきで躍動する姿が観客を魅了しました。

岐阜県「中山太鼓保存会」。県重要無形民俗文化財に指定されている太鼓。奏者が躍りながら円になり、一つの太鼓を十数人が順番に打つ勇壮な「回り打ち」で観客を楽しませました。

高校生以下を対象とする第6回日本太鼓ジュニアコンクールにおいて、32都道府県(出場276チーム・出場者3,366名)のトップに輝いた宮崎県「華太鼓かんなの会『ふじ組』」。最年少6歳を含む子供らしい澁刺とした、優勝チームにふさわしい表現力に溢れた演奏を披露しました。

志賀疾風太鼓保存会による石川県「能登の名人戦」。優れた打ち手を相撲になぞらえた、大関・横綱を初めとする、名人の権威を惜しみなく披露した演奏でした。

ラストを飾ったのは、小学生から大人まで20名が参加する山口県「下関平家太鼓保存会勝山会」。太鼓2鼓と酒樽1個の組み合わせで背を見せて打つ姿の美しさ、三味線、語りが一体となって奏でる音とリズムに、観客は聴き入っている様子でした。

各チームの自信に満ちた熱演、郷土色溢れる太鼓の音色と洗練された動きに、観客からは盛大な拍手が起こりました。

お成りをいただきました秋篠宮妃殿下は、ロビーに展示されたアジア婦人友好会の活動内容を紹介するパネルを熱心にご覧になられ、1時間にわたるコンサートの終了までお聴きいただきました。さらに、終了後は出演者全員に親しくお声をかけていただき、妃殿下の優しいお言葉に出演者の方々は感動し、このうえない喜びを感じていました。

出席者の皆様からご協力いただき集まりました募金総額930,000円は、アジア婦人友好会に寄贈し、同会からは、皆様のお陰でたくさんのご寄付が集まりましたと感謝の言葉が届いております。

## ＜出演団体＞

- ・新崎樽ばやし連(新潟県)
- ・大館曲げわっぱ太鼓「忍」組(秋田県)
- ・中山太鼓保存会(岐阜県)
- ・華太鼓かんなの会「ふじ組」(宮崎県)
- 第6回日本太鼓ジュニアコンクール優勝団体
- ・能登の名人戦(石川県)
- ・下関平家太鼓保存会勝山会(山口県)

## 第6回日本太鼓全国障害者大会のお知らせ

期 日：2004年10月3日(日)

会 場：諏訪市文化センター(長野県諏訪市湖岸通り5-12-18 Tel.0266-58-4807)

主 催：財団法人日本太鼓連盟 共 催：社会福祉法人富岳会

主 管：(財)日本太鼓連盟長野県支部 協 賛：日本財団

出演団体：やまびこ太鼓(福島)、新潟市ろうあ協会 万代太鼓豊龍会(新潟)、石川県立ろう学校 風神太鼓(石川)、甲州ろうあ太鼓(山梨)、飯田養護学校寄宿舎 あじまっ鼓、すみれ太鼓、花田養護学校 はなだ太鼓、和太鼓ちんどん、古塔山びこ太鼓(以上長野)、静岡県立静岡北養護学校 北龍太鼓、静岡ハンディキャップ太鼓の会、富岳太鼓竜神組、伊豆医療福祉センター どんつく、金谷大井川越し太鼓チャレンジチーム(以上静岡)、恵那のまつり太鼓、ファミリーユニット童鼓(以上岐阜)、豊里学園 和太鼓鼓粋KOIKI、豊中ろう和太鼓クラブ 鼓響、NPO法人視聴覚二重障害者福祉センター すまいる(以上大阪)、播州ろう龍姫太鼓 鼓鼓呂(兵庫)、仁寿太鼓(島根)、伊予三島磐座太鼓ろうあ部会 鼓龍会(愛媛) 以上22団体

## 日本太鼓と学校教育－18

今回は、知的障害者更正施設に勤務しながら、親子で精力的に太鼓指導を行っている、最年少公認指導員（25歳）の大友剛氏（秋田県・やまばと太鼓）より寄稿いただきましたのでご紹介します。

### 「心のふるさと やまばと太鼓」

### やまばと太鼓 代表指導者 大友 剛



（養護学校での指導風景）

やまばと太鼓は「この子らに心のふるさとを」と願い、亡き母が父と昭和61年に始めた太鼓です。

“太鼓には間違いがない、力一杯打て、間違えても堂々とした態度で、太鼓は心を伝えるもの、合わせなければうるさいだけ、リズムではない、気持ちを合わせなくては、相手に伝わらない”今のやまばと太鼓の基本です。

やまばとが、今年の第5回日本太鼓ジュニアコンクールで第5位に入賞させていただいた折り、(財)日本太鼓連盟の塩見理事長から丁寧な心のこもったご評価をいただきました。「あなた方の太鼓は、人数や体力的には他の太鼓にはかなわなかったけれど、隣村まで届くような響きが伝わってきた。それが日本の太鼓の最も大切な“心”です。今後もその気持ちを忘れずに頑張れ」理事長のこの励ましが、帰ってからの子供らの練習に取り組む姿に現れ、全く別人の様な太鼓になりました。教えの真髄に触れたような気がし、有り難く思っております。

私は福祉大学を卒業し、我が家で経営している福祉施設の内の知的障害者更正施設（もう一つは保育園）に勤務する傍ら、自分も太鼓を打つと共に、父と一緒に各方面にも出向き、太鼓指導（勉強）をさせていただいております。

福祉も太鼓も共通しますが、教えるというのではなく、むしろ利用者・習う人から教わるという事を実感しており、少し太鼓が打てる位で間違った感覚にならないようにとは、いつも自分に言い聞かせております。又、指導とは、教える側の都合ではなく、習う人毎に対応し、押し付けに気を付け、無理のない「適切と思われる」指導をしなければならないとは、いつも心がけております。更には、「太鼓で太鼓の指導をするのではなく、太鼓を通じて何か別のことをお伝えできたら」とも考えております。

今現在、子どもや障害を持った方々、他の大人の団体、中高一貫校の太鼓授業等でも指導をさせてい

ただいておりますが、中でも、生徒たちの素直さには関心させられます。私達の「絶対に大きな声は出さない」と、初めに伝えていることが、習う側の安心感に繋がっているのかも知れません。

私が今、最も関心を持っているのが養護学校高等部3年生に対する指導です。

10年以上前、太鼓の好きな先生から「生徒たちに太鼓を教えてください」と依頼された時、父は、先ず校長先生と会い「この学校の伝統となるように、今後、校長先生をはじめ今の太鼓の好きな先生がいなくなっても継続し『高等部3年になったから太鼓が打てる』という期待と憧れを生徒たちに持たせてあげたいという考えの基に、以後、校長先生の転校時の申し送り事項としていただけるのであれば、あらゆる協力と努力を惜しまない」と約束したそうです。その後、5人の校長先生が変わりましたが、太鼓は毎年引き継がれ、養護学校の名物になり、生徒達の心の宝物として根付いてきております。

長く続けることは並大抵ではありませんが、継続することの大切さを実感しております。個々の障害の様子・能力に合った指導を考えてやることにより、ゆっくりながらも確実に重ねた回数分、成果に現れてくることをすごく嬉しく思います。

学校での指導で戸惑うことは、先生たちが関わりたいくないという風潮が見られることですが、子どもの気持ちを分けるには一緒にやってみることで、又、努力、苦勞した分だけ感動が得られるということを言動で示し、その気になるのを粘り強く待っております。

太鼓はあくまでも楽しくなければ意味がなく、それは習う人、教える人にとっても全く同じだと思います。リズムだけを追って早く打ったり、拍手を誘うような仕草に走ることなく、常に“ドンでつながる、心と心”という精神を忘れることなく精進し、併せて人間性も養いたいと考えております。



（一人一人への丁寧な指導）

# 京都、長野で講習会を開催

## ～第20回日本太鼓全国講習会・第19回日本太鼓支部講習会～



(秩父屋台囃子講座)

### <第20回日本太鼓全国講習会(京都)>

第20回日本太鼓全国講習会が6月18・19日の両日、京都府支部が主管となりガレリアかめおかにて行われました。講習会には地元京都府をはじめ、全国20都道府県から182名が参加しました。

開講式では当財団の小野常務理事、主管団体である京都府支部を代表して富治林支部長より挨拶がありました。来賓として亀岡市教育委員会滝本健二教育長より祝辞をいただきました。

一流の講師により、2日間にわたって厳しい指導が行われ、受講生たちは、真剣な眼差しで太鼓に向かっていました。講習終了後には技術認定試験(学科、実技)が行われました。

#### ○専門講座

助六太鼓講座	講師	今泉	豊氏
八丈太鼓講座	講師	菊池	修氏
秩父屋台囃子講座	講師	高野	右吉氏

#### ○基本講座

総合指導	講師	古屋	邦夫氏
3級基本講座	講師	安江	信寿氏
4級基本講座	講師	若山	雷門氏
5級基本講座	講師	松枝	明美氏
	講師	富治林	浩氏

◇技術認定員検定の結果は次の通りです。

1級検定	35名受検	26名合格(9名認定)
2級検定	30名受検	25名合格(10名認定)
3級検定	14名受検	12名認定
4級検定	22名受検	22名認定
5級検定	44名受検	44名認定

### <第19回日本太鼓支部講習会(長野)>

第19回日本太鼓支部講習会が長野県支部主催により、5月29・30日の両日、長野県諏訪市文化センターにおいて行われました。

講座は3・4・5級基本講座が設けられ56名の受講生が参加しました。

#### ○基本講座

総合指導	講師	古屋	邦夫氏
3級基本講座	講師	若山	雷門氏
4級基本講座	講師	安江	信寿氏
5級基本講座	講師	松枝	明美氏

◇技術認定員検定の結果は次の通りです。

3級検定	8名受検	8名認定
4級検定	14名受検	14名認定
5級検定	32名受検	32名認定



(5級基本講座)

#### 障害のある方も検定試験に合格!

第20回日本太鼓全国講習会において、5級検定で軽度の知的障害のある方2名、2級検定には、聴覚障害のある方が受検しており、3名とも合格しました。

#### 3,388名が資格を取得

2004年7月現在の公認指導員・技術認定員数は以下のとおりです。

#### <公認指導員>

特別2名、1級22名、2級54名、3級109名、  
総数187名

#### <技術認定員>

1級45名、2級86名、3級372名、  
4級626名、5級2,072名 総数3,201名

### 第20回日本太鼓支部講習会(富山)の案内

期 日：2004年8月28日(土)・29日(日) 会 場：氷見市ふれあいスポーツセンター

講 座：3級・4級・5級(基本講座)

申込先：(財)日本太鼓連盟富山県支部 事務局長 熊野 誠 Tel/Fax. 0763-32-2807  
携 帯. 090-3294-9711

# 理事会・評議員会・運営委員会を開催 ～新役員を選任～

## <運営委員会>

第20回運営委員会(書面)が6月22日に開催され、「北海道道北支部の開設」が承認された。

## <評議員会>

第13回評議員会が6月23日に開催され、次の事項が承認された。

1. 2003年度事業報告及び決算について
2. 任期満了に伴う理事、監事の選任について  
(財)日本太鼓連盟の役員は2004年6月30日までの任期となっており、寄付行為第17条の定めにより第5期の理事・監事が選任された。

## <理事会>

第14回理事会が6月23日に開催され、次の事項が承認された。

1. 2003年度事業報告及び決算について
2. 任期満了に伴う会長、副会長、理事長、常務理事の選任について
  - ①現在会長である津田正理事が退任されたため、このたび新たに理事に選任された紀内隆宏氏を会長に選任。

- ②副会長は現状どおり、伝統太鼓担当は池田庄作理事、創作太鼓担当は小口大八理事を選任。
  - ③理事長は現状どおり、塩見和子理事を選任。
  - ④任期満了に伴い退任する小野常務理事の後任には、これまで社団法人全国モーターボート競走会連合会の常務理事をされていた中西由郎氏を選任。
3. 規程の改正について  
資料を基に役員退職慰労金支給規程並びに文書処理規程の改正案を説明し、承認された。
  4. 支部開設について  
資料に基づき北海道道北支部開設の説明を行い、承認された。

7月1日より、当財団役員は以下のとおりとなりました。

会 長	紀内 隆宏 (新任)
副 会 長	池田 庄作 (重任)
副 会 長	小口 大八 (重任)
理 事 長	塩見 和子 (重任)
常務理事	中西 由郎 (新任)

財団設立(1997年11月)より、6年余り務めておりました小野巽常務理事が6月末をもって退任し、後任に中西由郎氏を迎えました。小野前常務理事から思い出を、中西常務理事からは抱負を寄稿していただきました。



小野 巽 前常務理事

1997年11月の財団設立以来本年6月の退任に至るまでの間、会員の皆様のご理解とご協力により40支部(36都道府県)、820団体、会員23,000名の組織として前進し、海外においては、アメリカ、ブラジルに待望の太鼓の拠点として連盟(協会)が発足されました。このように、国内並びに国外の事業は軌道に乗り、順調に進展してきております。

私にとって数多い思い出の中で、特に印象に残っているのは全国講習会での出来事です。ひとつは、静岡で知的発達に障害を持つ子供たちが受講し、補習を受けながら苦勞して合格したとき、その親たちが「初めて人様から評価された」と涙を流さんばかりに喜んでいた姿でした。福島では「御諏訪太鼓」講座を受講した奥さんの太鼓を打つ姿を胸に焼き付けておきたいと、重い病を持つご主人が栃木県から子供連れで来られました。車椅子で友人に付き添われ、荒い息を吐きながらも熱心に見学されていました。ご主人は、その後2ヵ月も経たずに亡くなりました。

太鼓人(たいこびと)は、常に前向きで実直で明るく、感動や希望を与えてくれます。6年余りの在任中、他の世界では学ぶことのできない体験を数多くさせていただき、大変勉強になりました。心から感謝申し上げます。



中西 由郎 常務理事

このほど常務理事に就任した中西でございます。

太鼓の事に関しては、まったくの門外漢ですがいくつかの大会や演奏を見せていただき、日本太鼓の迫力、幼年層から高齢者までの幅広い愛好者、それぞれのチームの個性ある演奏等日本太鼓の持つ魅力、奥深さに惹かれはじめております。

これまで順調に発展してきた当財団ですが、全都道府県への支部の開設と会員の拡大、子供(学校)と障害者への普及等の課題も抱えております。

微力ではございますが日本太鼓の普及、振興のため努力いたす所存でございますので、みなさまがたのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ就任のご挨拶といたします。

## 事務局だより

### 北海道に5支部目の道北支部が開設

このたび、新たに(財)日本太鼓連盟の北海道道北支部が開設され、北海道全域に支部が開設されました。これで、36都道府県に40支部が設置されたこととなります。

北海道道北支部  
稲垣 紀夫 支部長  
(神楽岡太鼓保存会 代表)



この度、北の果て北海道道北から皆様の仲間入りとなりました、道北支部でございます。数年前より加入推奨を受けておりましたが、道北地域は北海道の三分の一からの広大な広さであるため、連絡調整に時間がかかり、このほど旭川太鼓連盟が中心となり、(財)日本太鼓連盟に加盟させていただきました。

太鼓は心の音とも言われ、一人一人心の音をありのままに表現できることが何よりも太鼓の美しさと響きであると思っております。

5団体の小さな支部ではございますが、誰よりも太鼓を愛するメンバーです。今後も多くの団体に加盟していただき、支部の発展に努力いたしますので、諸先輩団体におかれましては、新生道北支部に対しご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます、加盟の挨拶といたします。

<加盟5チーム・158名>

神楽岡太鼓保存会、永山屯田太鼓保存会、護国太鼓、正調北海盆太鼓、和太鼓北鼓響

<事務局> 事務局長 今野 勝司(神楽岡太鼓保存会) Tel. 0166-75-3987

### 第8回日本太鼓全国フェスティバルのお知らせ

期 日：2004年9月19日(日)

会 場：天童市市民文化会館(山形県天童市老野森1-1-1 Tel. 023-654-1511)

主 催：財団法人日本太鼓連盟

主 管：(財)日本太鼓連盟山形県支部、2004太鼓の共演in天童実行委員会

協 賛：日本財団

出演団体：龍・連山と和太鼓龍(山形)、助六太鼓保存会(東京)、富岳太鼓(静岡)、華太鼓かんなの会「ふじ組」(宮崎)\*第6回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チーム 手取亢龍太鼓保存会(石川)、高野右吉と秩父社中(埼玉)、御諏訪太鼓保存会(長野)、気仙町けんか七夕保存会(岩手)、山形県合同チーム(山形)、(出演順) 以上9団体

### 竹切りボランティアin金沢2004

5月8日石川県金沢市郊外の竹林において、日本財団と金沢竹切物語主催による「竹切りボランティアin金沢」が開催されました。これは、森林に侵食した竹の伐採の体験を通じて森林整備や、里山保全の意義の理解と、そうしたボランティア活動への参加増加を期待する目的のものです。伐採の後には、地元手取亢龍太鼓保存会による演奏、また、伐採した竹を楽器にして参加者で打ち鳴らす交流会が行なわれ、リズムに乗って竹の軽やかな音色を奏で、楽しんでいただきました。



(手取亢龍太鼓保存会)

### アジア地域海上保安機関長官級会合

6月17日船の科学館で開催されたアジア地域海上保安機関長官級会合レセプション(日本財団後援)において助六太鼓保存会による演奏が行われました。

演奏が始まると、それまで会話や食事をされていた方も、演奏に注目し、初めて聴く日本太鼓の勇壮な撥さばきに目と耳を奪われ、じっと聴き入っておられました。演奏後は大きな拍手が送られ、アジア諸国の方々にも、大変喜んでいただき、太鼓人気の高さを再認識させられました。



(助六太鼓保存会)

### 来年2005年度日本太鼓助成金交付事業申請は今年9月末までに

2005年度の日本太鼓助成金交付申請を2004年9月末日で締切ります。特に、教職員太鼓研修会事業の開催を期待しております。希望団体は書類を整え、当財団宛に申請を行って下さい。